

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人 胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホーム めくもりの家		
所在地	〒023-0401 岩手県奥州市胆沢南都田字大持30番地		
自己評価作成日	令和2年7月31日	評価結果市町村受理日	令和2年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、胆沢高齢者総合福祉施設めくもりの家の併設施設として開設19年目を迎え、法人の理念「優しく、温かく、共に生きる」の基、めくもりの家「利用者の幸せ、地域の幸せ、私たちの幸せ」の実現に向けて取り組み、地元幼稚園、小学校、個人、団体他により、地域交流スペースにおいては展示発表や各種イベントの場の触れ合いなどの交流の場となっています。また、保健・医療・福祉の各サービス事業所と連携を密にし、重度化した場合も指針に基づいて、ご家族様の要望を受け入れながら対応しています。今年の事業計画は、利用者の生き生きとした生活と常に寄り添うケアを目指しております。また、地域に出向いて認知症の理解を深める出前講座やオープンガーデン、野菜作り等、地元の方々との繋がりを持つように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保健医療福祉の各関係施設が一体となった、「胆沢高齢者総合福祉施設めくもりの家」の一事業所としての「グループホームめくもりの家」は、グループホームの「介護理念」に基づきスタッフ一丸となり、理念の実践に取り組んでいる。運営推進会議では、利用者家族、民生委員、事業所近隣部落住民等の委員から、利用者のケアの向上に向け、多くの意見が出されている。職員会議、主任会議、課長会議が定例化され、職員同士の情報共有が行なわれている。職員は、利用者が、住み慣れた地域で、その人らしい生活ができるように、利用者一人ひとりに寄り添い、食事、入浴、排泄等について、職員間で具体的な話し合いを行なっている。コロナ禍にある現在、地域との交流や外出支援を自粛していることから、勤務体制を見直し、手厚いケアが提供できるよう工夫した「生き生きカレンダー」を作成し、DVDの活用や中庭での散歩、中庭でのあおぞら食堂等、利用者の生活をより豊かにするための取り組みが行なわれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人基本理念・方針」を毎日、勤務者全員が集まって唱和して日々のケアに活かすように更に意識統一や向上を目指している。また、毎月1回全職員で会議の前に唱和している。	「法人基本理念・方針」を職員の見える場所に掲示するとともに、職員会議や運営推進会議等において、理念・方針を唱和している。グループホームの「介護理念」も掲示しており、今後は、職員会議で唱和し、意識の統一を図って行きたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との交流では里孫、小・中・高生、ボランティア等の訪問を積極的に受け入れている。また、地元の地区センター祭りへ参加し、近隣の方々との触れ合いや交流の場を設けている。今年度はキッズクラブとの交流を予定している。	開設時から、学校の協力を得て、小学校3年生から6年生を里孫として登録し、都合の良いとき自転車遊びにきたり、もちつき大会等のイベントに参加し、利用者と交流する等の事業を実施している。最近では、子どもたちに時間的余裕がなく来所者が少なくなっており、現在は、コロナの関係で登録のみとなっている。今年度から、キッズクラブ(学童保育)との交流を開始し、現時点ではビデオレターにより、交流を行なっている。昨年度は、地域住民を対象に、認知症についての出前講座を開催している。民生委員の方には、野菜作りに来て頂いている。地域の方のオープンガーデンに出かける等、地域との交流を深めている。	里孫登録は、子どもたちと高齢者の交流の有意義な事業であり、現在、子どもの生活は、時間的余裕がなくなってきたことも確かで、キッズクラブ(学童保育)との交流が代替していくと推測されます。今後も、子ども達との交流の機会を継続されることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献事業として、地域に出向いて認知症の理解を深める活動をしている。令和元年度は地域に出向いて認知症や看取りに関する出前講座を行い、地元の方総勢50名に参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所に関する生活状況の報告、外部評価、事業計画・報告を行い、助言や意見を頂きながら、さらなるサービスが向上出来るように運営に活かしている。また、事例検討を通して対応方法について助言を頂いている。	運営推進会議は、利用者家族、老人クラブ、近隣部落の方、民生委員、市職員等が参加し、年6回開催している。会議では利用者の状況や各事業の取り組み状況の報告を行なうとともに、日常の具体的な課題等を提示し、委員からの意見をサービスの向上につなげている。会議では「法人基本理念・方針」を委員と唱和している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について問題や課題が生じた時、解決に向けて、随時関係担当者や奥州市地域包括支援センターと連携を図っている。	運営推進会議に市担当課職員が出席し、最新情報等を提供して頂いている。介護計画作成時には、市担当職員から助言を得る等、日ごろから連携を深めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針やスピーチロックなど、職員会議で資料を配り、身体拘束をしないケアの必要性や職員の意識向上に向けて取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を年4回開催しており、新人研修では、身体拘束を体験する機会を設けている。利用者との日々の係わりでまとめた「職員禁句集」には、「禁止すべき点」と「良い対応方法」の両面が記載され、月1回は職員全員が目を通し、日頃の自らのケアを確認する等、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	事業所開設時から「職員禁句集」の取り組みをしており、職員のスキルアップに寄与している。スピーチロックに当たる言葉だけでなく、「良い対応方法」も記載されていることは特筆すべきと評価されます。今後も、ケアの向上に努められることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各事業所に虐待防止のポスターを目に入るところに貼って意識向上を図っており、身体拘束廃止対策検討委員会を設置して三月月に一回開催している。新人職員に拘束や虐待に対する体験研修を実施しており、また、職員禁句集を毎月読んで意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で日常生活自立支援制度や成年後見人制度について学び、利用者個々に検討している。現在、後見人制度の対象者は1名である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や加算等の変更等があった場合、または、介護報酬改定に伴う加算の必要性、料金改定の理由等について、家族に分かりやすく説明して、質問に対して丁寧に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の掲示と管理者・受付者・職員のポスターを貼り家族へ周知している。また、担当者会議がある際は家族の意向や要望を確認しており、面会時も気軽に職員に意見や希望を話せるような関係作りを図っている。	家族とは、面会時意見を聞くよう努めている。運営推進会議は、委員として参加し意見を述べる機会としている。利用者一人一人へのケアの状況一覧を作成し、職員との接触が少ない利用者の把握に努めている。利用者個々の生活場面を写真にし、担当者のコメントを記載した「おたより」を月1回家族宛に送付し、生活状況をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された意見や要望・提案は、会議録を通じて上司に報告して改善に向けて取り組んでいる。また、施設長が職員会議に参加して直接意見や助言を頂くようにしている。	毎月の職員会議には、施設長も出席し具体的助言を得ている。課長との個人面談を年2回実施し、職員の具体的な意向を確認することにより、業務改善等にも繋がっている。法人の課長会議、主任会議の結果は、全職員に周知するようにしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、公正、公平な評価が実施されている。また、個人目標シートを作成して、職員のやる気を引き出して向上心を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、職員研修、出張復命会を計画的に実施している。基本的な介護技術の習得を得るため、マニュアルの定期的な見直しやロールプレイを実施し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会の奥州・北上ブロック定例会に参加し、交流や研修会を通してサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭的な雰囲気の中で、心地よく過ごせるように、受容の態度と不穏や興奮状態の時は、寄り添って話を聞いて安心できる雰囲気作りを気配りしている。また、職員間で申し送りを通して情報の共有し、ケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約や面会、担当者会議の際、本人の状態や家族の意向・要望又は、困っていることをじっくり聴いて安心して生活出来るように支援している。入所申し込みの際は、施設内を見学して、グループホームの生活を詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで生活していた方が状態の変化があり、医療的ケアが必要になった場合、主治医や訪問看護との連携を図りながら、ご家族様の要望を受け入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜作り、花の世話、掃除、調理等、利用者一人一人が出来る範囲で役割をもって共に暮らして、生きがいを感じて頂けるように努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りを作成し、利用者の写真を添えて、日常生活の様子を報告している。行事などには参加を促し、家族との関係を大切に、共に支えあう関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚の面会時には、地域交流スペースや談話コーナーを利用して頂き、ゆったり触れ合えるようにしている。また、里帰りを計画して自宅へ行く機会を持ち、つながりを大事にしている。	家族の面会時には、利用者のご家族がゆったりした気持ちで触れ合えるよう配慮している。現在、コロナ禍でオンラインでの面会を開始しており、孫とオンライン面会を実施した利用者に喜ばれた。同じ施設内のデイサービスで、顔なじみになった利用者が遊びに来てくれ、非常に懐かしそうに会話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の勤務体制の見直しを行い利用者に寄り添うケアを実践している。利用者の生活習慣や思いを大事にして職員間で情報を共有し、孤立せず共に支え合える雰囲気作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族等に対して、契約が終了したその後の相談や支援に応じている。また、利用者の思い出の写真を家族に届けて継続的に関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの意向や思いを大切に寄り添うケアに取り組んでいる。本人に確認できない場合は、面会時又は電話で連絡した際、ご家族に確認して関わりを多く持っている。	職員は、寄り添うケアをテーマに、日々利用者に接している。業務日誌にその日の特記事項、全体状況を記入し、申し送りノートには、利用者一人一人の表情の変化等を記載している。職員は一人一人の状況をきめ細かに把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や契約時に家族や本人聴取している。また、日常生活の中で利用者とコミュニケーションを図りながら知り得た情報など家族に確認したり、記録に残して職員間で情報を共有して、より良いケアを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌への記録の他、申し送りノートを活用して情報の共用を図り、一人ひとりの生活様子を把握できるように努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、支援経過を担当職員が入力しており、アセスメントやモニタリングを充実させながら、24時間シートを活用している。また、課題がある時は、職員会議の場で認知症の勉強会を行い事例を全職員で検討し、ケアプランの見直しや周知を図っている。	入居時に、家族及び利用者との話し合いを通じ、これまでの日常生活などを把握している。入居後、担当職員が中心となり、日常の利用者の状況をきめ細かに観察し、24時間シートやセンター方式を活用し、利用者の思いや生活上の課題などを把握し、それらを基に副主任(介護支援専門員)が介護計画を作成している。職員会議で事例を検討し、見直しや周知を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録「排便状態・気分行動・メモ生活・受診・水分量」を記録して職員間で情報の共有をケアに活かせるようにしている。ケア記録を確認しながら、状態の変化がある場合は、ケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度より市の委託に伴い施設内に地域包括支援センターが設置され、更に連携体制が整っている。地域包括支援センター主催の思い出カフェに参加している。様々なニーズに対して廊下で繋がっている病院の訪問看護や訪問診療を受け入れており、健康福祉課と連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティア団体の受け入れや地元部落の方・消防署の協力による総合防災訓練、区内の小学校の里孫との交流等を継続して地域との繋がりを大事にしている。今年度はキッズクラブとの触れ合いを企画しており、雑巾縫いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って支援している。廊下で繋がっている、まごころ病院「内科・外科・整形外科・歯科」へ受診されたり、長年のかかりつけ医で診てもらうため、家族対応で精神科に受診されている方もいる。	かかりつけ医の「まごころ病院」とは棟続きであり、受診は基本的には家族同行としている。医療情報は、職員も共有している。精神科等の専門医には、家族が同行している。パート勤務の看護師とは、急変時にオンコールにより連絡できる体制が出来、必要時には助言を得ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、介護職と看護職が連携を密に行い、異常の早期発見・速やかな対応ができるようにしている。他事業所の看護師や訪問看護師・隣接の病院の医師・看護師と連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合、職員が頻繁に面会に行って状態の把握に努めている。また、家族と主治医と話し合う機会を設けて、回復状況や早期退院に向けて、情報の交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針について、家族に説明し同意を得ている。本人や家族の意向を尊重した看取りケアを実施しており、安らかに最期を迎えるように、医療機関との連携を強化して対応している。また、病院受診時、主治医から説明を聞いて家族の意向等を確認している。定期的に急変時のロールプレイを行い、速やかに対応できるようにしている。	看取り指針を策定している。重度化した場合の対応について、指針に基づき家族に説明し、同意を得ている。医療関係者との連携も十分図れており、これまで2名の看取りを行なっている。看取り後は、葬儀に出席したり、思い出の写真などを家族に提供する等、家族に寄り添う支援に努めている。看取り後の、職員の精神的支援も行なっている。職員は、急変時速やかに対応できるようロールプレイを用いて研修を重ねている。	利用者の尊厳を守り、家族に寄り添い、看取り介護を行なう職員の役割を、きめ細かに記載した看取り指針を策定し、またロールプレイを用いた研修を定期的に行なうなど、努力と工夫が窺われます。今後も、利用者、家族に寄り添ったケアを継続して提供されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、全職員対象にAED研修を実施している。また、必要に応じて誤嚥時の対応、緊急時の対応や吸引器の取り扱い、行方不明の緊急事態マニュアル等についてロールプレイを定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	奥州市緊急告知ラジオを設置しています。毎月14日、正常に作動するか試験を行っています。また、緊急メールテストの送信を2回、行っています。夜間想定避難訓練は、コロナの影響で8月7日に日中、実施しました。	災害対策として、奥州市緊急告知ラジオを設置し、定期的に、作動の確認をしている。発電機の使い方を職員全員で確認する等、非常時に備えている。避難訓練については、地域の方に、移動介助の役割をお願いし、事前に車椅子の操作方を研修し、参加協力を得ている。これまで、夜間の訓練も実施してきたが、今年はコロナ禍でもあり、日中に夜間想定訓練を行なった。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」を月1回、全職員が読んでチェック表に印鑑を押すようにしている。また、スピーチロックの勉強会を実施し、認知症があっても自分らしく生活できるような接し方を工夫している。	日頃のケアで、気になる言葉かけなどをまとめた「職員禁句集」には、「禁止すべきことば」「良い対応」の両面を記載し、毎月1回全職員が内容を再確認している。職員が気づかず使ったり行動している言動についても職員相互に注意しあいながら、利用者一人一人のその人らしさを尊重するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(畑作業、塗り絵、パズル、カルタ、カラオケ、散歩等)は、利用者が自由に選んで行っている。自分で出来る範囲で身の周りの掃除や洗濯物たたみ等を声がけしながら促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において決まった生活パターンではなく、その人らしさを大事にして寄り添うケアをしている。落ち着きがない利用者には、本人の気持ちを尊重し、関わっている。野菜切りや盛り付け等、本人の意向を確認しながら勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	物忘れがあっても自分で出来ることはやって頂くように(ボタンかけ・衣類の着脱等)声かけや見守りをして促している。また、母の日や誕生会では化粧をして気分転換を図るように工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理する際、職員と談話しながら、テーブル拭きやお茶・煮干しのパック詰め、食器洗い、盛り付けや野菜を切るなど出来る限り利用者と一緒に行うようにしている。	献立作成、調理は職員が行ない、同法人管理栄養士から、献立への助言を得ている。利用者にも手伝ってもらっている。会食時、〇〇さんに切ってもらった野菜だよ、畑から採ったのだよ等と披露している。コロナ禍で外出を控えていることから、職員のアイディアにより中庭にテントを張った「あおぞら食堂」を開設し、お弁当を取り寄せ、利用者が少しでも外食気分を味わえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食時チェックして記録している。水分摂取がしっかり出来るようお茶を残す利用者には代替として、ホカや牛乳を提供している。また、週に一回、栄養士に検食簿を提出し、助言をいただいている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄・消毒の支援をして清潔保持に努めている。また、食事前の嚥下体操を実施し誤嚥防止に努めている。歯みがき指導や治療については、家族対応で歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンの把握に努め、失禁を減らせるように声掛けして定期的にトイレ誘導をしている。直ぐにチェック出来るように排泄チェック表に記録し排便状態の観察をしている。	排泄チェック表を活用するとともに、利用者一人一人の排泄時間を記載した「排泄介助表」を作成し、職員全員が共通認識の下、適時排泄介助できるようにしている。そのことにより、個々に寄り添うケアが行なわれている。	職員が工夫作成した、めくもりの家独自の「排泄介助表」を活用し、利用者一人一人に寄り添うケアの提供が行なわれていると窺われ、今後も排泄の自立支援に向けたケアを工夫されていくことを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヤクルトやヨーグルトを提供している。便秘予防のため、水分補給を促したり、便秘改善のため、オリゴ糖を使用している。毎日、DVDを活用したオムル体操・椅子体操、天気が良い時は達者の里公園を散歩して身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、予定通り実施している。熱がある時は、清拭をして身体の清潔保持に努めている。一人一人の湯かげんに気を配り長湯にならないように声掛けしている。また、歩行が出来ない利用者には電動リフトを使用して、安全・安心に入浴ができるように努めている。	火・土は(食材購入日)入浴は休みである。週2回入浴とし、入浴時間は利用者と話し合い、スケジュール表を作成している。利用者の状況に応じ電動リフトを利用したり、シャワー浴や足浴を行なうこともある。これまでは、温泉にも出かけていたが、現時点ではコロナ禍の影響で実施していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠できるように、利用者の生活パターンを把握して、中庭や公園等へ散歩を促すなど、両足に浮腫みがある方には、足を挙上して休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容が把握出来るように個別の薬情報綴又は薬手帳で確認している。薬は個別包にして、氏名を印字し服薬時は職員複数で確認し合い服薬している。誤薬がないようにマニュアル通り実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から得意な仕事や趣味を把握して、役割として、テーブル拭きや洗濯物たたみ等を利用者の状態に合わせて協力して頂き、感謝の気持ちを伝えることで、いきいき生活できるように支援している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム めくもりの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区センター祭り、花の苗購入、地元の小学校の運動会、オープンガーデン見学、産直など、利用者の意向を確認しながら外出している。しかし、今年はコロナの影響で出来ないため、室内で出来る寄り添うケアを実施している。オープンガーデンは少人数で感染予防対策を取りながら行った。	コロナ禍に在り、外出は難しい状況であることから、日中の勤務体制の見直しを行い、一層の寄り添うケアの充実を図っている。「生き生きカレンダー」を作成し、室内でも楽しめるDVDの活用、カラオケ、中庭の散歩、地域の協力を得て個人宅のオープンガーデンの見学等、様々な工夫し利用者から非常に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機や喫茶はあるが、お金を所持し購入したい希望者はいない。利用者又は家族より要望があつて所持金管理に不安がある場合は、「預かり金管理」をして、日用雑費の購入など対応することもあるが、現在、対象者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話連絡したいと訴えがある時は、随時、家族と通話ができるように支援している。今年は面会中止のため、オンライン面会をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した作品を飾り季節感を感じてもらえるようにしている。玄関には、プランターに花を植えたり、ソファや長椅子を設置し、気軽に話しやすい居心地良い雰囲気作りをしている。冬はコタツを作り、くつろいで頂いている。	ゆったりとした共用スペースの中で、利用者がのんびりと過ごすことができるよう長椅子などを配置している。共用スペースからは中庭の花を眺めることができるなど、利用者が寛いで生活ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には、プランターに花を植えて利用者に水やりをして頂いている。まは、食堂にソファを設置し、気の合う利用者同士で仲良く談話したり、気軽に話しやすい居心地良い雰囲気作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具やテレビなど馴染みの物を居室に置いて、自宅と同じ家具の配置や雰囲気作りを家族に聞きながら取り組んでいる。	入居時、利用者及び家族と、これまでの生活状況等について話をしながら家具の配置などを一緒に考え、その人が事業所内でもより快適に生活できるように工夫している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリー・オール電化を使用している。毎月、危険個所のチェックをして、リスク予防に向けて取り組んでる。		